





国柄探訪  
平成25年4月13日付け

メール  
国際派日本人養成講座  
日本人養成講座  
よせいこうざ  
こくじんようせいこうざ  
にほんじんようせいこうざ

# 稻むらの火

## 1. 稻むらの火

「これはただ事でない。」  
海辺の高台に住む庄屋の五兵衛は、今長い地震のゆつたりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りでそう思つた。海を見ると波が冲へ冲へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやって来るに違いない。」と、五兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまう。家にかけ込んだ五兵衛は大きな松明を持って飛び出して来た。

「もつたいないが、これで村中の命が救えるのだ。」と、五兵衛は自分の田のすべての稻むらに火をつけた。

「火事だ。庄屋さんの家だ。」と村の者は、急いで山手へかけ出した。高台から見下している五兵衛の目には、それが蟻の歩みのように、もどかしく思われた。村中の人々は、追々集まってきた。五兵衛は、後から後から上がって来る老幼男女を一人々々数え見下していた。

稻むらの火は、風におおられて又もえ上がり、夕暮れに包まれたあたりを明るくした。初めて我にかえた村人は、此の火によつて救われたのだと気がつくと、無言のまま五兵衛の前にひざまづいてしまった。

## 3. 濱口儀兵衛の義挙

平川教授の分析では、中井青年はこの80年前の郷土の先覚の事績をラフカディオ・ハーンの書いた

文章を通して知つたといつ。それは主人公の名前が史実では濱口儀兵衛なのだが、ハーンの書いた通り

五兵衛としていることから明らかである。

ハーンは明治29年6月の宮城、岩手、青森3県

を襲つた、死者3万人にもおよぶ『陸大津波』の

号に発表し、さらに来日後第4の著作集『仮の烟の

落穂』の巻頭に掲載したのである。

2. 青年教師の熱情

これは昭和初期の国定国語教科書に取り上げられ

ている逸話である。平川祐弘・東大名誉教授の

『小泉八雲洋脱出の夢』ではその経緯を次のように紹介している。

『稲むらの火』が昭和12年から国語教科書に載つたのは、次のような経緯があつた。昭和九年、文部省は新しい国語と修身の教材を公募した。それに応募して選に入った人が、和歌山県湯浅町の一教員であった。当時の教え子光茂樹はその感激を『ぼくらの先生』といつ語り方に次のように書いている。

海辺の高台に住む庄屋の五兵衛は、今長い地震のゆつたりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りでそう思つた。海を見ると波が冲へ冲へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやって来るに違いない。」と、五

兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまう。家にかけ込

んだ五兵衛は大きな松明を持って飛び出して來た。

「もつたいないが、これで村中の命が救えるの

だ。」と、五兵衛は自分の田のすべての稻むらに火

をつけた。

「火事だ。庄屋さんの家だ。」と村の者は、急いで

山手へかけ出した。高台から見下している五兵衛の

目には、それが蟻の歩みのように、もどかしく思わ

れた。村中の人々は、追々集まってきた。五兵衛は、

後から後から上がって来る老幼男女を一人々々数え

見下していた。

稻むらの火は、風におおられて又もえ上がり、夕

暮れに包まれたあたりを明るくした。初めて我にか

えた村人は、此の火によつて救われたのだと気が

つくと、無言のまま五兵衛の前にひざまづいてし

まつた。

3. 濱口儀兵衛の義挙

平川教授の分析では、中井青年はこの80年前の

郷土の先覚の事績をラフカディオ・ハーンの書いた

文章を通して知つたといつ。それは主人公の名前が

史実では濱口儀兵衛なのだが、ハーンの書いた通り

五兵衛としていることから明らかである。

ハーンは明治29年6月の宮城、岩手、青森3県

を襲つた、死者3万人にもおよぶ『陸大津波』の

号に発表し、さらに来日後第4の著作集『仮の烟の

落穂』の巻頭に掲載したのである。

2. 青年教師の熱情

これは昭和初期の国定国語教科書に取り上げられ

ている逸話である。平川祐弘・東大名誉教授の

『小泉八雲洋脱出の夢』ではその経緯を次のように紹介している。

『稲むらの火』が昭和12年から国語教科書に

載つたのは、次のような経緯があつた。昭和九年、文部省は新しい国語と修身の教材を公募した。それに応募して選に入った人が、和歌山県湯浅町の一教員であった。当時の教え子光茂樹はその感激を『ぼくらの先生』といつ語り方に次のように書いている。

海辺の高台に住む庄屋の五兵衛は、今長い地震のゆつたりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りでそう思つた。海を見ると波が冲へ冲へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやって来るに違いない。」と、五

兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまう。家にかけ込

んだ五兵衛は大きな松明を持って飛び出して來た。

「もつたいないが、これで村中の命が救えるの

だ。」と、五兵衛は自分の田のすべての稻むらに火

をつけた。

「火事だ。庄屋さんの家だ。」と村の者は、急いで

山手へかけ出した。高台から見下している五兵衛の

目には、それが蟻の歩みのように、もどかしく思わ

れた。村中の人々は、追々集まってきた。五兵衛は、

後から後から上がって来る老幼男女を一人々々数え

見下していた。

稻むらの火は、風におおられて又もえ上がり、夕

暮れに包まれたあたりを明るくした。初めて我にか

えた村人は、此の火によつて救われたのだと気が

つくと、無言のまま五兵衛の前にひざまづいてし

まつた。

3. 濱口儀兵衛の義挙

平川教授の分析では、中井青年はこの80年前の

郷土の先覚の事績をラフカディオ・ハーンの書いた

文章を通して知つたといつ。それは主人公の名前が

史実では濱口儀兵衛なのだが、ハーンの書いた通り

五兵衛としていることから明らかである。

ハーンは明治29年6月の宮城、岩手、青森3県

を襲つた、死者3万人にもおよぶ『陸大津波』の

号に発表し、さらに来日後第4の著作集『仮の烟の

落穂』の巻頭に掲載したのである。

2. 青年教師の熱情

これは昭和初期の国定国語教科書に取り上げられ

ている逸話である。平川祐弘・東大名誉教授の

『小泉八雲洋脱出の夢』ではその経緯を次のように紹介している。

『稲むらの火』が昭和12年から国語教科書に

載つたのは、次のような経緯があつた。昭和九年、文部省は新しい国語と修身の教材を公募した。それに応募して選に入った人が、和歌山県湯浅町の一教員であった。当時の教え子光茂樹はその感激を『ぼくらの先生』といつ語り方に次のように書いている。

海辺の高台に住む庄屋の五兵衛は、今長い地震のゆつたりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りでそう思つた。海を見ると波が冲へ冲へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやって来るに違いない。」と、五

兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまう。家にかけ込

んだ五兵衛は大きな松明を持って飛び出して來た。

「もつたいないが、これで村中の命が救えるの

だ。」と、五兵衛は自分の田のすべての稻むらに火

をつけた。

「火事だ。庄屋さんの家だ。」と村の者は、急いで

山手へかけ出した。高台から見下している五兵衛の

目には、それが蟻の歩みのように、もどかしく思わ

れた。村中の人々は、追々集まってきた。五兵衛は、

後から後から上がって来る老幼男女を一人々々数え

見下していた。

稻むらの火は、風におおられて又もえ上がり、夕

暮れに包まれたあたりを明るくした。初めて我にか

えた村人は、此の火によつて救われたのだと気が

つくと、無言のまま五兵衛の前にひざまづいてし

まつた。

3. 濱口儀兵衛の義挙

平川教授の分析では、中井青年はこの80年前の

郷土の先覚の事績をラフカディオ・ハーンの書いた

文章を通して知つたといつ。それは主人公の名前が

史実では濱口儀兵衛なのだが、ハーンの書いた通り

五兵衛としていることから明らかである。

ハーンは明治29年6月の宮城、岩手、青森3県

を襲つた、死者3万人にもおよぶ『陸大津波』の

号に発表し、さらに来日後第4の著作集『仮の烟の

落穂』の巻頭に掲載したのである。

2. 青年教師の熱情

これは昭和初期の国定国語教科書に取り上げられ

ている逸話である。平川祐弘・東大名誉教授の

『小泉八雲洋脱出の夢』ではその経緯を次のように紹介している。

『稲むらの火』が昭和12年から国語教科書に

載つたのは、次のような経緯があつた。昭和九年、文部省は新しい国語と修身の教材を公募した。それに応募して選に入った人が、和歌山県湯浅町の一教員であった。当時の教え子光茂樹はその感激を『ぼくらの先生』といつ語り方に次のように書いている。

海辺の高台に住む庄屋の五兵衛は、今長い地震のゆつたりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りでそう思つた。海を見ると波が冲へ冲へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやって来るに違いない。」と、五

兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまう。家にかけ込

んだ五兵衛は大きな松明を持って飛び出して來た。

「もつたいないが、これで村中の命が救えるの

だ。」と、五兵衛は自分の田のすべての稻むらに火

をつけた。</









